

# 十月一日より、全館禁煙になります

澤 功（澤の屋旅館主人）

※この記事は日観連機関誌の2006年11月号に掲載されました。

十五年ほど前、外国のお客様を受け入れている旅館の人に「全館禁煙にしたいんですが、どうでしょうかね」と相談を受けました。

「そうするとタバコを吸う人を断ることになって、お客さまが減ることになるから、やめた方がいいと思います」と答えたことがあります。

ところで長時間、海外旅行での飛行機の中で、前の席のタバコの煙に悩まされたことがあります。今は全面禁煙になっています。

オーストラリアに行った時、ビルの入口の前でタバコを吸っているビジネスマンの人たちを見かけましたが、ビル全体が禁煙になっていると言われて驚きました。

欧米のレストランでは、ほとんど禁煙でした。海外では禁煙の方向にむかっているようです。

宿泊客の八五%が外国のお客さまで、それもほとんどが欧米のお客さまの私どもでも、禁煙の対策をせざるを得なくなってきました。

そこで、平成十六年の五月に、部屋以外のパブリックスペースを禁煙にしました。

フロント、食堂、廊下などに禁煙マークのプレート貼り、食堂の灰皿をなくしました。お客さまからのクレームはなく、玄関の外でタバコを吸うようになりました。そこで玄関の横に木の切株を置いて、その上に灰皿を備えました。

入口の階段に腰掛けたり、立ったままなど、さまざまな格好でタバコを吸っています。

ところで、ここ数年、チェックインしたお客さまを部屋に案内すると「タバコのおいがするから部屋を替えて下さい」と言われることがよくあります。他の部屋が空いている時はできますが、満員の時にはどうにもなりません。

そこで掃除の時に、タバコのおいを消すことに気をくばりました。窓を開けひろげて掃除をして、それでもおいが残っている時は、窓を閉めてエアコンでシヨンを回して脱臭機を作動させます。でも、完全ににおいを消すことはなかなかできません。

そこで今年の四月に家族で相談しました。私どもは十二室しか部屋がないから、禁煙ルームを作ると部屋割りがしにくく、予約が受けにくくなります。完全ににおいを消すことは大変です。それなら全館を禁煙にしようという結論になりました。九月までの予約が入っていたので、十月一日から実行することにしました。

私どもの予約は四一%がEメール、四〇%電話です。さっそくインターネットのホームページに英文と日本文で十月一日より全館禁煙の予告をしました。電話で予約を受ける時、禁煙になることを言い忘れないように、全

館禁煙と赤字で書いた紙を電話機に貼りました。

ちょうど新しいパンフレットを作成中だったので、その中にも掲載しました。

一つ困ったのは、年に何回も仕事で滞在してくれる日本人のお得意さんがヘビースモーカーなこと。全館禁煙ならもう来ないと言われる可能性があります。八月に宿泊された時、十月から全館禁煙になることを話しました。

「禁煙のところが増えたんだよね。飛行機も電車もレストランでも、その上タクシーまでそうなんだから仕方ないよ」と言うてくれました。「部屋はベランダのある三階でとるようにします。ベランダに出て吸ってもらえれば大丈夫です」とつけ加えました。

また、玄関の植え込みの中に空き地を作って、そこに木のベンチを置いて、大きな灰皿を備えて腰掛けてタバコの吸えるスペースを作りました。

いよいよ十月一日になりました。全室に禁煙マークの入ったプレートを置き、部屋の灰皿を全部撤去しました。

心配した十月からの予約は減りませんでした。九月と変わらずに満員の日が続いております。

チェックインしたお客さまに「全館禁煙になりました」というと「パーフェクト」と言うことばが返ってきます。

ところで、私は三十代でタバコを止めることが出来ました。でも酒はいまだに止められず、毎日晚酌をしています。もし全館禁酒の宿が出現したら、私にとってはそれこそ一大事です。